

「段取り・真剣・尻拭い」

仕事をしながらでも、心が乱れることがないように修練するのが作務です。

つまり、日々の生活のなかで行う動的な修行であって、単なる作業ではありません。

作務と作業の違いは、仕事する時の心構えにあります。

仕事を始める前の計画や手順、方法、割り振り、準備などを行うことを「段取り」と言います。

仕事が始まったら、熱心に仕事に集中します。

これが「真剣」であり、仕事に没頭することです。

終わったら、仕上げの点検や後始末、引き継ぎ、報告などを行います。これが「尻拭い」になります。

この「段取り」「真剣」「尻拭い」をきちんと意識しながら行う事で、単なる作業が作務になり、自らを鍛える事になります。

これを、日常生活や仕事などにも取り入れることができます。

会社の仕事に取り組む姿勢と100%同じです。

「段取り」「真剣」「尻拭い」がきちんと出きれば、あなたは「仕事の達人」になれるでしょう。

それぞれの環境でやらなければいけないことに積極的に取り組んでいく姿勢。

それを「三昧」と呼びます。

当面する課題に真剣に取り組めば、心が磨かれ、人間として大きな力を得る事になります。

その際、段取りや尻拭いをきちんと行えば、日々の仕事や学業が、修行へとつながるのです。

ビジネスの現場にも役に立つ「江戸しぐさ」

雨の日に、傘を相手と反対側に傾ければ、相手に雨のしずくはかかりません。

又、狭い道ですれ違う時に肩を引くだけで、ぶつからなくてすみます。

それが、気配りであり、心遣いです。

そして、それは「江戸しぐさ」でもあります。

傘を傾ける行為を「傘かしげ」。

ぶつからないようにすることを「肩引き」と言います。

あくまで「肩引き」であって「肩出し」ではありません。

すれ違う時に肩を前に出すと、もしも当たってしまった時にぶつかってきたような印象になります。

あくまで自らが引くことで、相手にも気持ち良くすれ違ってもらおうという心遣いです。

いかにも日本人らしい思いやりと行動です。

現役時代、常に心がけたことがあります。

それは、会社に来られてお会いしたお客様がお帰りになる時、自分が必ず玄関までお見送りして、お客様の乗られた自動車が見えなくなるまで、その場にずっと立ったままお見送りを続け、見えなくなる時に深くお辞儀していたことです。

お客様のなかには、最後にちらっと振り返る方もいらっしゃいます。

そんな時にも、ちゃんとお辞儀でお見送りできました。

これを江戸しぐさでは、「あとひきしぐさ」と言います。

このように、お互いに気持ち良く過す、ちょっとした相手を思いやる行動が江戸しぐさの本質です。

「しぐさ」は漢字で「思草」と書き、「思」と「草」に分けられます。

「思」はそのまま「思う」という意味です。

「草」は植物の草ではなく、「言いぐさ」などのように使われる「行為」や「行動」を意味します。

江戸時代の商人は「三つ心、六つ躰、九つ言葉、十二文、十五理」と言って、相手を思いやる気持ちが自然に行動に出せるように子供を育てました。

<経営のヒント>

江戸しぐさには、日本人としての躰や行動などが遺伝子のようにつながっているのですね。

現代の若者の一部には、自分勝手な行動が目立ちます。

それは、躰を誰も教えていないからではないでしょうか？

大人の責任でもありますね。

江戸時代の江戸に住む庶民たちは、狭い場所でお互いに相手のことを気遣いながら、貧しいながらも仲良く生活してきた智恵がありました。

「傘傾げ」「肩引き」「あとひきしぐさ」

こんな言葉と意味を知っていたら、もっと相手を思いやる心も身に着くと感じます。

又、「段取り」「真剣」「尻拭い」

そして「三昧」の言葉の意味は、こんな文化背景があったのかと驚かされます。

「江戸しぐさ」のような良い文化は残していきたいですね。

それが、本物の日本らしい「おもてなし」につながるのではないのでしょうか？